



TITLE:

米國に於ける一家五口の最少生活 資調

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 米國に於ける一家五口の最少生活資調. 經濟論叢 1921,
13(1): 122-126

ISSUE DATE:

1921-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127798>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第三十卷 第一號

大正十年七月一日發行

論叢

利潤の經濟的・道德的性質(一)

法學博士 田島 錦治

營業の租稅給付能力

法學博士 神戸 正雄

進歩か退歩か(一)

法學博士 財部 靜治

農業勞働問題(一)

法學博士 河田 嗣郎

中世都市の發達(一)

文學博士 三浦 周行

時論

直接稅制度の整理に就て

法學博士 小川郷太郎

說苑

我國農產物生産調査に就て(一)

農學博士 高岡 熊雄

雜錄

米國一家五口最少生活資調

法學博士 山本美越乃

Luca Paciolo 以前の會計史概要

法學士 大森 研造

家畜保險に就いて

經濟學士 野口 正造

ボルシェヴィズム分解の傾向

法學博士 河田 嗣郎

雜 錄

米國に於ける一家五口の最少生活資調

山本美越乃

今次の世界大戰が各國民に與へたる最も重大なる打撃の一は、一般物價の騰貴從て生活の困難と云ふことであつたが、之が爲に從來比較的關係視せられたる生計費調査の問題は、何れの國に於ても大に世人の注意を惹くに至り、殊に米國に於ては政府自ら率先して此の問題を組織的に研究し、一には勞働者の家族支持に必要な可からざる經費の最少限度を知るの資料となし、又一には之に依りて生計費の嵩加する状態を比較研究せんとする目的を以て、主として勞働統計局に於て之が調査を遂げ來りしが、同局主事ローヤル、ミーカー氏が昨年米國社會事業協議會の年會に於て報告せる該調査の一端は、此の種の問題の研究者には他山の石として參考

第十三卷 (第一號 一二三) 一二三

に資すべきものが少くない、故に左に其の要旨を紹介しようと思ふ。

(一)食物、普通の力役的勞働に従事する成年男子の一日に要する熱量(calorie)は三千乃至三千二百位なるも、食物を調理する際等に約一割位は浪費され、又假令之を口中に入るも其の一部分は消化吸収せらるるに至らずして排出するを以て、三千乃至三千二百カロリーを攝取せんとせば、少くとも三千五百カロリーを包含せる食料を購ふの必要がある、而して夫、妻、子女等に依りて消費さるべき食物の必要量は、年齢、性、體質、職業及び其の活動狀態等を考察して、實驗上累は其の比例を知ることが出來た、即ち之に據ると一家五口(夫妻及び三兒)十二歳男、六歳女、二歳男の家族に於ては、夫の要する熱量を假りに一とせば、妻〇、九、十二歳の男兒〇、九、六歳の女兒〇、四、一歳の男兒〇、一五、合計二、三五と云ふ割合となる、此の平均數は一家五口の標準的家族約二百八十戸(十一の代表的都市より約二十五戸を選定して)に就

	(ハ)		(ロ)				(イ)			
	野		穀				鳥			
	菜						獸			
	類		類				肉			
	罐乾生	其米燕小小	其烏羊豚鰻鱈生							
	野野		麥麵						牛牛	
	菜菜	他	麥包粉				肉肉肉肉肉肉肉			
	詰									
	一三九四	二二三	四五七 四五六	三三二	四四	二六	七八	一一五	八五	野成
	六四	四四	五八	三四	四四	二六	七八	一一五	八五	

米國に於ける一家五口の最少生活資調

(ル)	(又)	(リ)	(チ)	(ト)	(ヘ)	(ホ)	(ニ)
氷	珈琲・茶・加々阿・其他雜品	果實類 乾生 菓果 類類 誌	砂糖・蜂蜜及蜂蜜類	鷄卵	脂肪及植物性汕類	牛乳・乳皮・牛酪及乾酪類	魚肉及海產物類
			二〇九	一〇二	八一	一七七八	六九
二八〇〇	六八	五七					

(二)衣類 衣類選擇の標準は當に保温・清潔・爽快等の目的に應じ得るのみならず、其の外觀體裁等に於ても各人は自己の屬する社會に於て他の侮蔑を招くが如きことなき程度のものを選択せんとするの風あるを以て、是等の點をも考慮せねばならぬ、左に掲ぐる衣類に對する最少限度の要求は、一九一八年乃至一九年に亘りて勞動統計局に於て一家五口を有する約八百五十の家族に就きて調査したる所のものを基礎とし、之に首府ワシントンに於ける實驗の結果を參酌し

六歳女子分

[illegible]

護謄靴	一	護謄靴	一
襪	二	襪	二
ハンカチーフ	六	ハンカチーフ	六
靴足袋止メ	二	靴足袋止メ	二
革帶	二年毎ニ一本	靴足袋止メ	二
二歳男子分	一	同上	一
帽子	一	帽子	一
下観衣	三	外套	二年毎ニ一着
下肌引	三	スエッター	二年毎ニ一着
腹衣	一	下観衣	二年毎ニ一着
靴	二	下股引	二年毎ニ一着
ドレス	八	腹衣	二年毎ニ一着
下胴衣	四	靴	二年毎ニ一着
靴足袋	一〇	手袋	二年毎ニ一着
靴足袋止メ	二		
年中用			
夏季用			
冬季用			

(三)住宅、住宅に關しては保健及び衛生上先づ注意すべきは、空氣の流通、光線の投入、室數、室の大小、窓、位置等に對する考慮であつて、左に示す所のものは其の最少限度の要求とも稱すべきものである。

一九一八年乃至一九年に亘りて勞働統計局の調査したる所に據れば、米國人たる普通の勞働者の家族の大多數は、畧ば一人一室の割合を以

て住宅を占むるが故に、一家五口の標準的の家族に對しては、居室、食堂、厨房、大寢室、小寢室の五室を有せしむることを以て最少限度の要求と看做し得る、尤も小兒は男女の別に應じて其の寢室を區別すること諸種の點に於て好ましき事情あるが故に、之に別室を與ふるとせば晝間の居室を夜間には寢室に充つることである、然らずんば或は居室一、食堂兼厨房一、寢室三となすも敢て不便ではない、之と共に又各室の大きさも保健及び衛生上に重大なる關係を有するも、寢室は少くとも各室(10×12 ft)の大きさを必要とすべく、食堂兼厨房も亦之と畧は同一の大きさを要するを以て、前記五室を有する住宅は浴室・廁等を除き少くとも五百六十平方尺の面積を必要とすべし、空氣の流通及び光線の投入の設備に付きては、各室には一般に二箇の窓を設け、其の内一は直接外部に面して外氣の流通を自由ならしむべく、又窓の大きさは十二平方尺以上たらしむるを要す、住宅の位置は交通の便を有する地域を選定すべきは勿論、其の附近に遊

園地等の存することは更に望ましく、裏町又は貧民窟に接近せる場所の如きは不適當なりとす。以上は米國に於ける一家五口の勞働者の家族の支持に必要な最少限度の衣食住の要求たり、此の如き細密なる調査に基き家族の支持に必要な缺く可からざる収入は何程なるべきかを算定するを以て、彼等の賃金問題に對する態度及び要求は、何人とも雖も漫りに之を排斥し去る能はざる根據と權威とを有せり、賃金増加の要求の如きは唯漠然たる主張に依りて或は業主を動かかし、或は社會の同情を得んとするもそは畢竟無意義にして、何等根柢なき架空の言論の力に依りてのみ此の種の問題を解決せんとする時代は既に過ぎ、歐米に於ては今や『事實は最良の雄辯』たることを各種の方面より立證して世の批判を仰がんとする時代に進みつゝあることを、我が勞働階級及び勞働問題の研究者の爲に特に茲に注意して置きたいと思ふ。

本編は主として (U. S. Dept. of Labor, Monthly Labor Review, Vol. X, No. 6, pp. 1-13. (二據))